

平成29年度授業改善推進プラン 技術・家庭科

昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・授業に興味・関心がもてるような題材や課題設定を心がけた。その結果、興味・関心をもって取り組む生徒が増えた。今年度はさらに多くの生徒が興味・関心を持ち、授業に取り組めるよう工夫を行う。
- ・作業にゆとりをもって製作できるように、作品は部品点数が過度に多くないものを選定している。
- ・実習題材を精選し、視聴覚教材を利用しながら学習の基礎・基本の定着を図った。週に1時間の授業での達成度は十分でない面もあるが、3年間の指導計画で学力の定着を目指し継続する。
- ・実用度の高い作品を教材としたことで、作品を持ち帰らない生徒はいなくなった。この取り組みは継続することが重要と考える。
- ・作品作りにあたっては安全に留意した指導を意識しているが、こちらの意図しない時間や場面で指に怪我をする場面があった。工具の取り扱いについては怪我をしない指導が継続して必要である。

技術・家庭科の課題と具体的な改善策

観点	現状の分析と課題	具体的な授業改善策
関心・意欲・態度	<p>I. 授業(座学及び実習作業)には、どの学年の生徒も意欲的に取り組むことができるが、学習テーマによっては集中力に欠ける場面がある。</p> <p>II. 生徒の様子からは「ものづくり」が好きであることが伝わるが、設計図を描いたり、それらを読みとることや、手順を考え作業することが苦手な生徒が多くみられる。</p> <p>III. 食生活の実習は、男女ともに関心・意欲が高い。しかし、衣生活の実技は女子に比べて男子の関心・意欲が高くない。</p>	<p>I. 作業にゆとりを持たせるために部品点数を減らす。 I. 作業進度の速い生徒を指導役とすることで、進度の遅い生徒へのアドバイスを促す。教える体験をさせることで積極的に活動させる。 I. 新しい教材の利用や、授業の導入部分で生徒の実生活に関連した内容を取り上げるなど、生徒に身近で興味・関心を高める取り組みを積極的に行う。</p> <p>II. 作業工程表をつくり、作品を完成させるまでの計画を立ててから、作業を行う。</p> <p>III. 進度の遅い生徒に対して、放課後に作業の補習を行い作品を完成させる。 III. 実際の生活において、作品を活用する観点から、補修の仕方までを指導する。 III. 座学の授業でも、拡大図や資料をプロジェクタや電子黒板を使って提示し、生徒がイメージしやすく、理解が深まるような工夫をする。</p>
創意・工夫	<p>I. 優れた作品や評価の高い作品は、機能やデザインに工夫された部分があることを理解させたい。</p> <p>II. どの学年の生徒も、計画を立ててから作業を始めるよう徹底したい。</p> <p>III. 2、3年生に増えてきたオリジナリティ溢れる作品を、1年生にも広げたい。</p> <p>IV. 作品作りにおいて、創意工夫しようとする意欲を今後も持続させたい。</p>	<p>I. 生徒作品のよいところを褒めるように心がける。1年生では、自分の発想をどのように表現したらよいか、必要に応じてアドバイスを行う。 I. 既存のデザインに自分でアレンジを加え、オリジナリティのある作品とすることで関心・意欲を高める。 I. 生徒に自由な発想を立てさせるため、想像力を引き出したり、個性的な作品を製作できるように工夫を行う。 II. 学年に応じて完成しやすい題材を取り入れ、完成した時の成就感や達成感をもたせる。 III. 見本となる作品例や段階標本をできるだけたくさん作成し、生徒自身が実際に目で見て、確認しながら、技術が身につくよう工夫する。 III. 昨年度の作品を提示し、具体的に構想が練れるようにする。 IV. 基礎的な技術が確実に身につくよう、提示資料を工夫する。</p>
技能	<p>I. 作品を作る際に、効率や器用さにおいて技能的な差異が確認できる。作品製作の経験を増やし、細かい作業を得意にさせたい。</p> <p>II. 3次元を意識した作品作りができる力を付けさせたい。</p> <p>III. 3年生が身に付けているコンピュータの操作能力を、他学年でも当たり前ものとしたい。</p> <p>IV. 衣生活と自立・食生活と自立の分野では、作品製作や調理などの実習において理解や技能に個人差が大きい。</p>	<p>I. 放課後、技術室・被服室を開放し、作業の遅れを取り戻す時間を確保する。</p> <p>II. 優れた作品は、区や都の展覧会に出展することを知らせることで、意欲を高める。</p> <p>III. ソフトウェアの使用法については、教師がマニュアル的なものを用意し、課題解決の一つの手段とさせている。また、実際のマニュアルを読み取る力を養うようにする。</p> <p>IV. 基本的な技能は時間を確保し、丁寧に指導する。</p>
知識・理解	<p>I. 生徒が座学の授業に苦手意識を持たず、基礎的な知識を身に付けさせたい。</p> <p>II. 授業中の説明のみで生徒に理解をさせたい。</p> <p>III. 定期考査において、いずれの学年においても正規分布に近い得点のばらつきがみられた。</p>	<p>I. 基礎的な知識を身につけさせるよう小テストを繰り返す。</p> <p>II. ワークシートやワークノートを活用し、基礎的な知識を身につける。</p> <p>III. 筆記試験のやり直しをする機会を設けるなど、筆記試験に苦手意識を持つ生徒をフォローする。</p>